

英語総合演習 休校中の課題③ 4月24日発行

和文英訳

次の日本語を英語に直しなさい。

ノートを1冊用意して、問題の和文を書き、その下に英訳を書きなさい。

翌週に解答例と解説を示すので、赤で訂正をすること。そのノートは学校が始まってからノートを提出してもらいます。

4月24日の分

- 1 1) 僕の発言が彼女を傷つけるなんて思いもしなかった。
- 1 2) 「トム、ごはんですよ。」「わかった。すぐ行くよ。」
- 1 3) 成田空港に着いたら電話します。
- 1 4) ここから東京ディズニーランドまで電車で行くなら、3回も乗り換えが必要になります。

15) 大学を卒業したら海外で仕事を探すことに決めている。

4月17日分の解答例と解説

6) 列車で隣に座ったおじいさんに、どこまで行くのと尋ねられた。

An elderly man sitting next to me on the train asked me where I was going.

ここでの「行く」は未来のこと。よって考えられる時制は<will +V>か<be going to (V)>か<be + (V)ing>。おおよその違いは次の通り。

- ① Will + V その場の思いつきによる行動
- ② Be going to (V) あらかじめ考えている行動
- ③ Be +(V)ing 予定が確定している行動

この文では列車の中で「どこへ行くの？」と尋ねられていることに注目。

「その場の思いつき」を表す①will+V は使えない。列車の中で行き先を考える人はいないからです。突然決まった旅行に対して「どこに行く？」と尋ねるなら Where will we go?でもいいが、ここではダメ。だから②か③を使う。Be going to go という形は go が重なっていい表現ではないので、③にする。

さらに時制の一致によって過去形にすることも忘れないように。日本語には時制の一致がないので注意。

「列車で隣に座ったおじいさん」は an elderly man sitting next to me [who was sitting next to me]とする。「おじいさん」は an old man とするより an elderly man の方が丁寧な表現。この elderly は-ly で終わっているが形容詞なので注意。ここでの「おじいさん」は「老人」の意味なので a grandfather は不可。

「～の隣に」は next to my seat としても間違いではないが、next to me でもよい。

「列車で」はふつう on the train とする。Get on the train 「列車に乗る」の on the train と覚えておく。この文の「列車」は「話し手の乗った列車」であることは明らかなので、定冠詞の the をつける。

この英文では間接話法を用いているが、直接話法を用いると、

An elderly woman sitting next to me on the train asked me, “Where are you going?”となる。入試では間接話法で書くことが要求されることもあるので、どちらの話法でも書けるようにしておくこと。

7) 公共の交通機関では不便だから、レンタカーを借りてその街をあちこち見て回るのはどうだろう、とジムは言った。

Jim told us that we should rent a car to get around the city because the public transportation was inconvenient.

「借りる」、「見て回る」が未来のことなのはわかるであろう。ただし、ここでは「提案」をしているので<will + V>も<be going to (V)>も使えない。これを使うと「もう決めているからみんな従えよ」という感じになる。

「提案」「忠告」をあらわすときには should が便利。なお、should は shall の過去形なので、時制の一致で過去形にする場合もそのままの形で使う。これは must についても同じ。

「レンタカーを借りる」は「車（お金を出して）借りる」と考える。

- ① Rent ~ (from 人) 「(有償で) ~を借りる」
- ② Borrow ~ (from 人) 「(無償で) ~を借りる」※持ち運びが可能なもののみ
- ③ Lend ~ (to 人) 「~を貸す」

ここでは①になる。

「(街を) 動き回る」は get around が定型表現である。この around はここでは前置詞ですが、副詞の「あちこち」の意味でも使える。なお move around と言うと比較的狭いところ(家の中など)になる。「街を見て回る」は「観光する」see the sightseens も可。

「交通機関」は米語では transportation、イギリス英語では transport と言う。「輸送機関」もこの語を用いる。なお「(交通機関が) 不便だ」は not very good でも可。

8) いつ結婚するか、子供を産むか生まないかは、各人の自由な判断によるべきだ。

Everyone should be free to decide when to get married and whether to have children.

「結婚する」と「運転する」は未来の事柄です。「結婚する」は get married ですから「いつ結婚するか」は when S will get married となる。もし結婚

が確定しているのなら when S is getting married とすることも可能。

「子供を産む」のもっとも簡単な表現は have children ですから、「～かどうか」という接続詞 whether を用いて、whether S will have children or not とする。この場合の or not は whether or not S will have children と whether の直後に置いてもかまわない。またつけなくてもよい。

ここでは、それぞれの表現に to 不定詞を用いて、when to get married, whether to have children とするのが簡潔である。またこの方が、主語を明示する必要がない点でも便利。

「自由に～する」は be [feel] free to (V) が一般的。

(例) Please feel free to ask me questions.

「どうぞ自由に質問してください。」

また「～を判断する」は、後に when ～や whether ～が来ることを考えれば、decide とするのが適している。

「べきだ」は「提案」なら should。「人間とはそうあるべきだ。」という断定口調なら must。「その必要がある」という感じならば、have to。ここではどれを使ってもよいであろう。

「A か B か」では、「いつ結婚するかの自由」と「子供を産むか産まないかの自由」のどちらか一方だけしか認められないのなら or になる。両方

が認められるなら and。ここではもちろん and になる。

9) 大地震がいつどこで起こるかは予測不可能だ。

It is impossible to predict where and when there will be a major earthquake.

「(地震が) 起こる」は未来の事柄なので、will を用いて<there will be ~> とする。日本人は「起こる」に注目してしまうため、happen や occur を使う人が多い。それ自体は問題とは言えないが、やはり自然な表現は there is ~。これは「事故」「停電」などについても使える。

(例) There has not been a major traffic accident in this town for ten years.

「この町ではここ 10 年の間大きな交通事故は起きていません。」

(例) There was a blackout last night during the typhoon.

「昨夜は台風の間停電した。」

なお「大地震」の「大」は major がベストですが、big でも可。とくにアメリカ人は big を多用する。

「予測する」はやはり未来をあらわすから、to 不定詞を用いて、to predict

～とする。またここでは predict の代わりに tell / know も使える。

「いつどこでの語順」は、日本語と逆で where and when です。次の表現も暗記しよう。

- ① 東南アジア Southeast Asia
- ② あなたの住所氏名 your name and address
- ③ 白黒テレビ a black and white television
- ④ 衣食住 food, clothing and shelter
- ⑤ 東西南北 north, south east and west

10) ジムは万事うまくいくと言い張ったが、私は心配で仕方なかった。

Jim insisted that everything would be all right, but I couldn't help feeling worried.

「万事うまくいく」の時制は、「いく」は未来のことなので、will を使う。さらに時制の一致により would を使う。「うまくいく」は単純に be all right[alright]だけで十分。Work out fine という言い方もある。

「言い張る」は<insist that SV>を用いる。これは「周りの者の反対を顧みずあくまでも自分の意見を曲げずに通そうとする」という感じの語である。

ここでは「SV だろうと言い張る」という文だが、もし、SV に「SV すべきだ」という内容が来る場合には S should V あるいは S+動詞の原形を用いる。

(例) Bob insists that everyone (should) come to tomorrow's party.

「誰もが明日のパーティーに来るべきだとボブは言い張る」

なお<insist on (V)ing>の形で用いることもあるので、覚えておくこと。

この on (V)ing は、on の基本的な意味「接触」から「V から離れない」という感じの表現。

「心配である」は、worry「心配する」、be worried「心配している」が最も口語的な表現。やや堅くなるが、be anxious も可。

「～で仕方がなかった／思わず～だった」は、「思わず笑ってしまう」「どうしてもそう考えてしまう」といった場合にみられる「感情が思わず吹き出してしまう」というときには can't help (V)ing。を用いる。Help は「～を支える」が原義なので、「感情が噴き出すのを抑えきれない」という意味になる。

